

醒めた砂

岡嶋宏和

ザラメみたいな風の吹く 淡い陽だまりに
どうしてか触れなかった あなたの髪がなびく

ひとの前で 無防備に眠るのに
独りになると何を想うの？

増えたゼロハンテープが 隠したポスターの滲み

つかみ損ねた空

そのどこか痛い青の中

あなたと破った約束

今でも欠片を探している

慣れちゃいないんだ僕たちは あの日からずっと

視界に渦巻く 後悔の歌に

忘れたくて走るんだ だれでも良い 声が欲しい

思い出で埋まらない 心の穴に

お姫様の手をつかむ 澄んだ英雄譚の夢

曖昧に二度寝を誘うから 寝覚めの寂しさが夜を鳴らす

あなたの唇が誘った クジラに会える水族館

今更に断る理由を探しているのでしょうか

手放したはずの日常

守ろうとして閉じこもった過去の中
悪夢になったのは僕の方
このすべてが砂上の砂遊び

愛しなかった人生は 思い込みの成れの果て
エゴイステイツク
自己中心的で結構ね 自虐のファンファーレ
許さないよ今回は 不幸に溺れるその傲慢
後付けの覚悟なんて 退屈なだけ

退屈なだけ

ああそうだ、覚えていたことだ

閉じた瞳と鼓膜と 震えるあなたの照準
撃ってみなよ心臓を いつかの口づけみたい
背負いきれない罪と罰 身勝手な妄想
ちよつとくらい奪ったって 変わりはしないよな

慣れちゃいないんだ僕たちは あの日からずっと
視界に渦巻く 後悔の歌に
そんな痛みごと僕を溶かしたのです 誰でもない あなたが欲しい
思い出で埋まらない 心の穴に